3
神呪のネクタール
しんじゅ
原作
吉野弘幸
漫画
佐藤健悦
Champion RED Comics
RED

神呪のネクタール
しんじゅ
3
原作
吉野弘幸
漫画
佐藤健悦
Champion RED Comics
RED

前巻までのあらすじ

異世界に召喚された"稀人(マレビト)"、カイ・ワタリ。ダーラ共和国のスリーア砦に囚われたサクラ姫を救うため、仮面をつけてグレイ少佐と名乗り、軍を率いることに。

神呪の力でダーラ軍を撃破し、サクラを救い出したカイは、アルビオン王国の王子・リュカの命を受け、ドワーフの国・ガランドアへと向かうことに——!

〈ガランドア王国〉

登場人物

カイ・ワタリ

異世界に召喚された"稀人"。"呪乳"の力を得て無敵の戦士に変身する。グレイの遺志を継ぎ、サクラを守ろうと決意する。

サクラ・シャクンティーラ・アドニエラ

ダーラ共和国に滅ぼされたアダール侯国の姫。乳房に神秘の力を宿す"神妃"。その力のため、ダーラ共和国に追われる身となる。

リギア・クラッツ

レムリアンカンパニーの軍人・少尉。突然現れたグレイ(カイ)をいぶかしむが、その戦いぶりを見て心酔する。

セレア・イグニス

ハーフリングの錬金術師。幼い少女に見えるが、中身は大人。カイが稀人と知り、異世界の技術に興味を持つ。

目次 CONTENTS

初出／チャンピオンRED 2017年9月号〜12月号

第9話／ドワーフの姫

運命というのは
わからないものだ
就職に失敗して
バイト先も
転々とし続けた
社会不適応者のおれが
カイ・ワタリ
異世界から召喚された稀人。
仮面をつけてグレイと名乗る。
異世界に喚び出されて
気付いたら軍人として
兵隊を指揮している
アラン・セザック
リギア・クラッツ

そこは
おれの世界で言う
19世紀位に
文明が進歩した
ファンタジー世界で――
チッ
サクラ・シャクンティーラ・
アドニエラ
アダール侯国の姫。
神秘の力を持つ"神妃"。
科学が発展し
代わりに魔法が衰退して
失われかけた技術に
なっている

そんな世界で
おれが新たに命じられた任務は
ドワーフの姫に会って彼女を
自分の神妃(モノ)にすることだった!!

数日前
――カーセル――
レムリアンカンパニー商館
まずはカンパニー所有の外輪蒸気フリゲートを使い
海路でジンガまで向かっていただきます
我々の植民地です
そこからは陸路で
マラガ亜大陸の付け根には大山脈地帯があるのですが
そこにこのドワーフ最強の王国の一つ
ガランドアがあります
ドワーフ…

彼らはそもそも
鍛冶や冶金術に
長けた種族ですが
現在では科学技術の
吸収にも貪欲で
生み出される製品は
世界中で引く手あまた――
また個人の
戦闘能力も高く
我々も
そしてターラからも
一目置かれています
充分に注意して
ください
わかりました
レージュさん
せっせ
カキ
カキ
カイさん
あの
それは
あ
向こうの世界の
筆記用具です

…こっちに来たとき身につけてたものはほとんど捨ててきちゃったんですけど
これだけはなんとか持って来れたので
ぺしん
たっ
もうっバカですかあなたは!!
え〜?
そんなものを持っているのはマレビトだけですよ!!!
それにこの文字!!
そう
文字
こっちに来て驚いたことにまったく見覚えのない文字をなぜかおれは読むことが出来た
しかし書くのはさすがに難しく

それでジンガからガランドアへの移動手段ですけど――

うっわ〜
ほんとうに凄いんですね！
ドワーフが作った列車って!!
見て下さい少佐!!
この細工の細かさときたら!!
ほぁ〜
確かにすごいものだな
ドワーフって無骨で野蛮な感じですけど
こんなの作れるんですねえ
機関車の接合部も全部見事なリベット打ちだったし…
本当にすごい工作精度だ
彼はレン
おれの従卒になった兵士だ

〝男はハンマーを振るい
女は絵筆を走らせる〟
ってな
――ドワーフの女たちは
細工や工芸に優れてる
っていうぜ
!
もしかして曹長は
ドワーフの女の人に
会ったことがあるん
ですか!?
あるわけ
ねーだろ
そしたら今頃
俺はドワーフの
旦那様だ
――そうなのだ
王子の秘書――
レージュさんの
講義によれば
ドワーフは
基本
女性が表に
出ることはなく
どうしてもと
いうときには
顔も身体も
隠して現れる

彼らの掟では
成人してから
素顔を見せるのは
家族だけだそうだ
どんななんでしょう
ドワーフの女の人って!!
まあ
男から
想像するに…

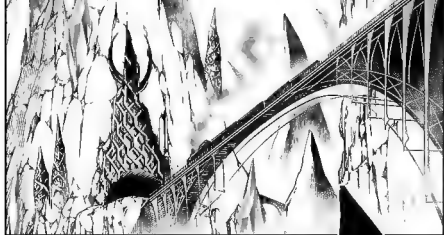
ぽや～
し――ん
………

そんな姫を
口説くのか…
はあ～
しかし少佐
本当に
部隊の皆を
ジンガにおいて
俺達だけで
来てよかったん
ですかい？

向こうに警戒させたくない
少なければ少ない程いいのさ
…いや
そういうことじゃなくて
?
いやあ
今回はドワーフの姫さまが目当てでしょう?
リギア少尉もサクラ姫さんも
内心穏やかじゃなかったと思うんですがねえ
そうか?
二人とも笑顔で送り出してくれたが…?
いってらっしゃい
少佐ドノ
無事に任務を果たされることを祈っております

うわあ…
やっぱり大物ですね少佐は
ああ
さすが軍神グレイ
…？
軍神グレイ…
とても恐ろしげな名前ですね
恐れる心配などございませぬ!!
統領の命令一下
我ら近衛は一命をもってドルネア様をお守りする所存にございます!!

よろしくお願いしますね
御意!!!
軍神…グレイ…

凄いな…
ゴゥゥゥゥゥ
これを山の中に作ってるのか…
我がドワーフの技術と芸術の結晶だ
恐れ入ったか

……!!
貴様
グレイ・エンフィールド
だな
なっ
なんだ
おまえたち!!

いかにも
俺がグレイ・エンフィールドだ
帰れ

ぎょっ
俺が欲しいのはこの国だ

貴様・・・
我らドワーフを
征服しようと
いうのか？
違う

俺はアルビオンとガランドアで
同盟を結べないかと思っている
同盟だと…!?
一介の軍人風情が!!
貴様にそこまでの権限はなかろうが!!!
…………っ
それはどうかな?

くそ!!
これだから
口ばかり上手い
長耳と話すのはムカつくんだ!!
なんであれ
貴様の願いを
叶えるつもりはない
とっとと
帰れ
そう言われても
もう帰る列車が
ないな
わかっておるわ
そもそも
貴様
そのつもりで
この列車で
来たのだろうが!!
薄汚い
長耳め!!

明日の昼までは
滞在を許してやる
それで帰れ
ザッ
さもなくば――

貴様らを
不法滞在で処刑する
法に則った
処置だ
文句は言わせん
……

さんざん
言ってた割に
いい宿に
泊まらせて
くれるんですね
ゴッ…
本来ドワーフってのは
客を全力でもてなす
習慣があるからな
とはいえこれは
多分――示威行動
っつーか
つまりは
自慢だな
やはり
かなり
技術力に関して
誇りがあるようだね
――だからこそ
どことも組まずに
独立を保ってきたわけだ
連中
個人の戦闘力も
高いですからね
戦うのは
ホネが
折れるんで――

戦争するより商売相手にしておいたほうがいいって判断でしょう
……
俺も連中とはやりたくありません
ただ…

あくまで噂ですがダーラはどうやら本気でこの国を落としにかかるんじゃねえかっていう――
そうなんですか!!?
ああ
確かにレージュさんの講義でもそんなこと言ってたな…

寝る
はぁ？
少佐!?
ガチャ

とりあえず
明日の昼までは
ここに居られる
慌てるのは
明日の朝でいい

ビュオオオオ

ビュオオオオ
この山脈地帯を抜ければ
ガランドアは目と鼻の先!!
ゾッ
ザッ
脚を止めるな!!!
キュ
………
ギル様?
なんでもない
──あの無様な兵器がカンに触っただけだ

——どうしよう
ボフッ
まーた
あちこちでハッタリ
かましたけど

つまりは
ノープラン
なんだよなあ……

ドワーフの王は
完全に敵対ムードだし
……
ダーラが侵攻しようと
していることが何か
使えないかな？
うーん…！
でも
ドワーフたちは
自分でなんとかするって
間違いなく言う
だろうし……

コンコン
ガバ
？
レン？
アラン曹長
か？
ササ

あの…夜分に
お邪魔いたします

こちらは
グレイ様の御寝所で
よろしいでしょうか
……？
あ
はい
そうです…けど
よかった
ミュル
スル
いっ…
!!?
なっ なにをっ
!!?

ゴク
……
ガランドア王ハヴォルの妹ドルネアと申します
びくっ
した

少佐は
わたくしを奪いに
来て下さったと
聞きました
ちょっ
待っ…!!
あばば
経験がなくて
申し訳ないの
ですけれど…
どうぞ――
ずにゅ

わたくしを
奪ってくださいまし
うばって…って
お情け…いただきます
まっ
待ったあ
あああ!!!

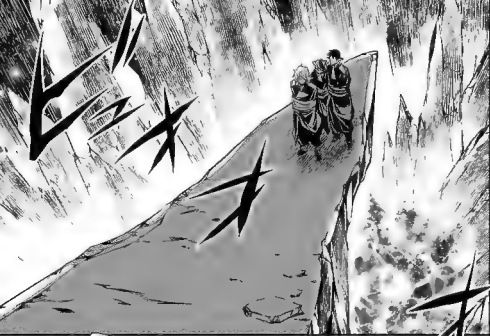
おれは確かにあなたを目的にここまで来ました
――でもこれは違う!!
ちがうのですか?
はー
はー!…
ではどうすればよいのです!?
侍女たちにも聞いてきたのですが
わたくし――
そっちじゃなくて!!
?
とにかく落ち着きましょう
そうだ深呼吸しましょう!!
すぅー
はぁ――
ずー
むぐ
ケホッ
けほ
それ外したらどうですか?
ここまで脱いでるのに

ボッ
え…っ!!?
カァァァ
…恥ずかしい…です…
いやいやいやいや!!!
顔を隠して身体隠さずって
どうなってるんだドワーフの倫理感!!
それともこのお姫様が特殊なのか!!?
本当に見たいです…か?
…ああ

綺麗だ…

……
なんだ手前ら!!
うわああぁっ!!

ドルネア
無事か!!
……おにいさま
ぬおおおおおっ!!
貴様…よくも
よくもよくもよくも
よくも!!!
我が愛しい妹を
穢してくれたな
!!!
俺は
穢してなど――

黙れ!!
嫁入り前の娘の素顔をみておいてよくも――ッ!!!
素顔だと!?
問題そっち!!?
ええ～
…妹の純潔を穢した罪
我らドワーフの掟に則り
きっちりと償ってもらう!!!

ビュオオオ
嫁入り前の娘の素顔を見た男は
その娘を嫁にとるか
あるいは死ぬか
それがドワーフの掟だ
だが俺は
鍛冶も出来ないような長耳を
ドルネアの婿には認めん

つまり
お前に残された道は
死ぬことだけだ
マジで
やばいっすよ
少佐…!!
で
でも
少佐なら
なんとか
できますよね!?
ね!? 少佐!!
統領
今回の処刑の
経緯を書いた
書簡です
ご署名を
これを
使者に届け
させる
貴様は
許されざる
狼藉を働き
法に則って
処刑された
となァ
あれは…
万年筆…?
賭けてみるか――
無様な筆記具だな

なんだと!?
これはドワーフでも最高の細工を施したペンだぞ!!
俺の胸元にペンがある
それを出してみろ
なんだ…これは…!?
ボールペンはこの世界ではまだ発明されてないドワーフなら興味を持つはず
ゴソ

なんですか
この透明な…
樹脂？
見たことも
ない素材です
!!
なんと
なめらかに
……!!
先端に…
極小の金属の
タマが入って
いるのか!?
なんという
細工の精度だ!!
それは
俺の秘密の工房で
作らせたものだ
これほどの
工作の技術が
ドワーフ以外に
あるというのか!!?

ハヴォル殿
一つ俺と勝負をしないか？

題材は何でもいい
お前達が作ったモノと
俺が作ったモノ
どちらがより
優れているかで

なっ…貴様
このドワーフに
モノ造りで勝負を
挑むというのか!!?

本当の先端技術
というものを
貴方に
お見せしよう
ドワーフの王よ!!!

【ドワーフ】 骨太でがっしりとした体型、褐色に近い肌色で頑健な肉体を持ち、立派な髭を蓄えている、というのが一般的なドワーフのイメージである。だがそれはあくまでドワーフの男性についての話であり、女性に関しては、そもそも彼らのテリトリーの外に出ることが少なく、またまれに出て来たとしてもその全身をヴェールやマントで覆っているため長らくその容姿が他種属には謎とされてきた。一説には、大変な美女揃いであるとも言われるが、特に未婚女性の場合、その素顔を見てしまった者は責任を追求され大変なことになるため事実は確認されておらず、「いや、実は女性にもみな髭が生えている」とか「男性以上に筋骨隆々だ」など、様々な憶測が飛び交っている。

【ガランドア】 マラガ亜大陸の付け根にそびえるノルド山脈の地下に、広大な地下王国を築いているのが、ドワーフの国でも最大級の規模を誇るガランドアである。政治体制としては、いわゆる王に等しい世襲制の『統領』がトップに位置し、やはり世襲制である貴族階級がそれを支える。昔から、ノルド山脈の地下から掘り出される鉱石などを原料とした冶金技術に優れていたことで有名だったが、近年では科学技術を発展させ、様々な工業製品や兵器の開発・輸出で国力を充実させている。その技術力は他国も渇望するところだが、ガランドアはその国力を背景に他国の干渉を拒み、徹底した孤立主義を貫いている。

第10話／
翡翠殿の陰謀

ドゴォォォ
ドワーフにとって
生きることは〝造る〟事だ
ガガ
この工房は
鉱床も兼ねて
おってな
必要な素材の
採掘から精錬――
そして製品への
加工まで
全部できる
ようになっている
ジュォォ

神々が去り魔法が失われたお陰で
逆に我らの仕事はしやすくなった
なにしろ科学は万人に平等だ
一に一を足すと必ず二になる
魔法みたいに四とか百とかにならんのがいい
……

あれは？
！
ふあああ…
すっごいですねぇ
今の我らの
最高傑作だ
ある意味では
失敗作だがな

装甲列車だ・・・!!!!

この装甲じゃ
並の大砲じゃ
まったく歯が
立ちませんぜ
そうだな…
昔 鉄工所で
バイトしてたから
よくわかるけど…
本当に凄い技術だ
基本的に全部
リベット打ちなのに
僅かな隙もなく
各部が組み上がってる
……!!
素晴らしい
出来だな
とても
失敗作には
見えないが？
近くのランギルと
いう国の依頼で
造ったものだがな――
〝カネに糸目は
付けぬから
とにかく頑丈で
強いモノにしろ〟
という話だった故
喜び勇んで
造ってはみたものの――

やり過ぎて
時間が嵩んでな
納品するまえに
ランギルはダーラに
滅ぼされた
──こいつは
間に合わなかった
兵器なのだよ
ただ
そもそも機関車を
重連にしなければ
動かせぬバケモノだ
線路の傾斜が
少しでもあれば
三重連
他に引き取り手も
なく
こうして
塩漬けになってる
だが今の我らの
持てる技術を
突っ込んだ
最高傑作の一つ
なのは間違いない

どうだ？
これを見てなお
貴様は
俺に技術の勝負を
挑もうと言うのか⁉
少佐…やっぱり
この勝負
めちゃくちゃ
不利なんじゃ…
不安になるよね
当たり前さ
だからこそ――
いまさらそんなことを
言い出すのは
もしかして
怖じ気づいたからか！

なんだとぉ!!?
俺たちがか!!?
違うなら失礼

よかろう！ 勝負の題材は何にする？
あのペンの構造はわかった
すぐにでももっとよく書けるペンが出来るぞ？

蒸気機関車だ

お前たちの最新型よりも
速くそして力がある機関車を作ってみせよう
貴様…正気か!?
至ってね
とはいえさすがに大物だ僕ら三人では作れない
必要な材料と場所——それに職人を借りたい
……ムシがいいな
自信が無いのか?
いいだろう乗ってやる!!!

期限は君たちが作るのに必要な期間と同じで構わない

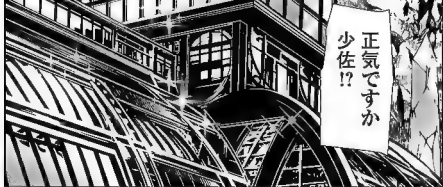
――――なら三週間ってとこだ

短…っ!!!

ではそれで

いいか耳長(みみなが)
俺たちに勝負をふっかけた以上
負けたら追放くらいでは済まぬと思え!!!

覚悟の上だ

フッ

正気ですか
少佐!?
ドワーフの機関車は
世界で一番って
言われてるんスよ!!?
それと競うって
…!!
世界一――か
だからこそ
挑む意味が
ある
しかし…
心配無用ですよ
軍曹!!
僕には
もうわかってます
少佐には何か
秘策があるん
ですよね!!!
ドワーフたちも
あっと言わせるような!!!
……。

よくわかったな さすが俺の従卒だ
ぽん
やっぱり!!
さすが少佐です!!
うっわ 信頼されてる…
ま 本当に考えてることはあるんだけどね
ただ…
──ただ
それを実現するためにはどうしてもある人物の助力が必要だ
ゴク
アラン 部隊が駐留しているジンガまで往復最短で何日だ？
五日ってとこですね
レン・バーク一等兵
君に任務を与える
可及的速やかにジンガからある人物を連れて来て欲しい

やれやれ

しょうがない子だねえ ハヴォルは

ドワーフの王宮
“水晶宮（すいしょうきゅう）”

耳長などと無駄な勝負をして

奥の院
“翡翠殿（ひすいでん）”

さすがにないとは思うがの
――万一負けたらどうするつもりなんだか
手はうつさ心配ない
ふむ…しかしのう
耳長がこの国で死んだら奴らが攻め入ってくる口実になるぞ
そこはもちろん考えてあるとも
本当に男共ときたら
モノを作ることしか出来ぬからのう…

……!!
よく集まってくれた
不満を持つ者も多いだろうが
諸君はこと物造りにおいて
指揮する人間が気にくわないからといって
手抜きできるような人種ではないことはわかっている

フン…俺たちは
確かにモノ造りに
妥協はしねえ
だがそれも
自分が納得
できるモンを
作るときだけだ
あんたに
それが出来るのか
？
ギヌロ
勿論だとも
──で
俺たちは何を
どう作ればいい
話が早くて
助かる
まずは
君達が
普段作っている
蒸気機関車と
基本的に同じ
手順で部品を
作ってくれ
なんだと…!?

ああ!?
設計はいままで通りだってのか!?
それじゃテメエは何もしねぇことになるじゃねぇか!!!
約束しよう
君達が私に従ってくれれば
君たちが未だに触れたことのない未来の世界を覗かせてやる
あの〝ぼおるぺん〟ってのはスゲー出来モンだった
あれみたいなモンが
造れるんだろうな?
この命をかけて約束しよう
…だそうだ!!
みんな働け!!
ザワ
親分…
いいんスか?

ウソだったら
谷底じゃねえ
溶鉱炉に
飛び込んで
もらうぜ
かまわないとも
作業は
俺たちも
手伝う
出来る仕事が
あったら言ってくれ
さあ
また空手形の
連発だ
──頼むぞ　レン
君が戻らなければ
本当におれたちは
溶鉱炉行きだ──
ゴォォォ

うと
うと
はっ
いけない…
居眠りしそうだ

毒だ!!!

——ッ!!!

毒針――!!?
く……!!!

……!!!
うわあああーッ!!!

すみません
少佐…!!

―十日後―

部品はかなり揃った
いい加減
組み始めねえといくら俺たちでも間に合わねえぞ

……
おい耳長の!!
未来を見せるってのはハッタリじゃねえんだろうな!!?

無論だ

だがまだ準備が出来ていない　あと少し時間をくれ

……この十日

あんたはエルフにしちゃよく働いた

………

俺たちを失望させるなよ

クソ　どうしたんだレンの奴　どんなに手間取っても

もう絶対戻ってきてる筈だってのに…

ギイ

あの…もし

エルフの御方

コソ

?

今夜
これを着て〝翡翠殿〟の裏手に
――ドルネア様がどうしてもお話したいことがあると

こいつは…女物の衣装!!?

なるほど
これなら怪しまれずにすむか
まさか行くんですかい!?
翡翠殿ってのはドワーフの女たちが住んでるとこでしょう!?
バレたら今度こそあの統領に殺されますぜ!!?

…だが現状
レンが戻らない限り
手詰まりだ
何か動く可能性が
あるなら
そこに賭けたい
少佐…

グレイさま…

まったく作業が進んでおらぬらしい
もう時間切れだな
いまからでは到底間に合わん
そんな顔をするな
お前にはいい婿を見つけてやる
〝神妃〟などという呪われた肩書きなどに惑わされず
……!!
……
お前を心から愛してくれる男をな!!
神妃――

この乳房を
殿方に含ませると
神々の呪いが
その身に宿る…
んっ…
あっ…！

こちら
ドルネア姫の
お部屋ですか？

グレイさま…!!!

…!!

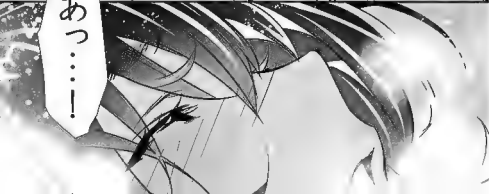
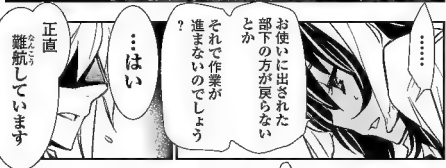
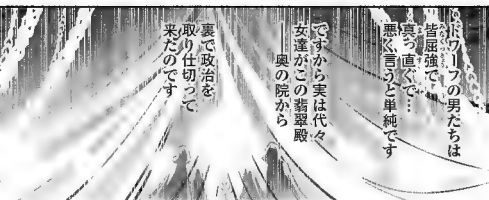
こ

これは失礼

す

少しお待ち下さい

——それで

お話というのは？

申し訳ありません!!
姫…!?
いきなりどうしたのです?
……
お使いに出された部下の方が戻らないとか
それで作業が進まないのでしょう?
…はい
正直
難航しています
……
おそらくそれは祖母たちの仕業です
すみません
もっと早くお伝えしたかったのですけど
侍女すら外に出してもらえずこんなにかかってしまいました

……あにうえは…まだ統領を継いだばかりで信頼がありません

それで万一貴方に負けるようなことがあってはと奥の院の方々は考えたようなのです…

……!!

レン…

ですが
ハヴォル殿は十分
皆の信頼を得ている
ようでしたが

…本来
ドワーフの男は
身を固めて子供を
儲けなければ 一人前と
みなされないのです

でもあにうえは
わたくしが神妃として
生まれたことがわかったとき

わたくしが無事に
嫁ぐまでは自分も
嫁を取らないと
誓って…

いまもそれを
頑なに守って
いるのです

だから
わたくし…
ドキ
それで合点がいきました
だから貴女は最初の夜…いきなり俺のところに来たんですね？
わたくしが貴方のものになれば
あにうえが自由になれると…そう思って
まさに捨て身だったわけですね
大胆すぎて
正直戸惑いましたが――

言わないでくださいっ!!

本当は…すごくっ

恥ずかしかったんですから…っ

大丈夫
なんとか
してみせます
でも——!!
それに
ここで降りたら
貴女を手にれる
ことが出来ない

……!!!

…わかりました

でも
本当に
どうしようも
なくなったら
わたくしを
頼って下さい

約束です

…ありがとう
ございます

姫

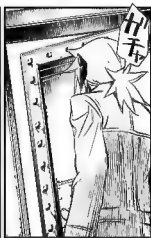
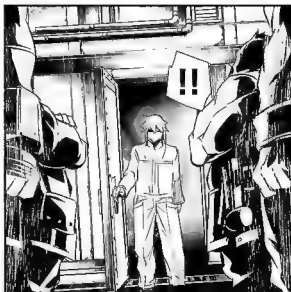
あの
どうか
ドルネア

と

ありがとう
ドルネア

――とは言え
手詰まりだ
どうする…？
普通に組み上げるか？
でもそれじゃ
絶対――
ガチャ
!!

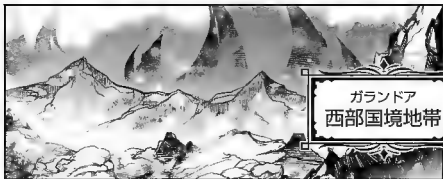
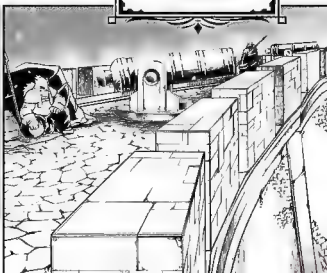
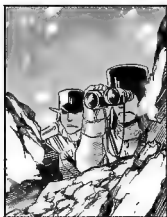
遅かったな
耳長

ハヴォル殿…

…俺は嘘つきが大嫌いだ!!!
特に物造りの嘘はな!!!
もう許せん!! 貴様を今から溶鉱炉に放り込んでやる!!!
くそ…っ
万事休すか——
お待ちなさい!!!

まだ刻限は残されているはず!!!
ゴッ
一度交わした約束を違えるのが一国の王のなされることですか!!

サクラ姫…!!

間に合ってよかった
今度は
私が貴方を助ける
番ですね
グレイ

第11話／雷の力

ガランドア
西部国境地帯
ガランドア
いち
一の長城

ダーラ軍
ガランドア侵攻部隊
斥候からの報告です！
〝壁〟の警戒に当たる兵士はかなり少数とのこと
予想どおりだ!!
この時季にはるばるノルド山脈を越えてきた甲斐があったというものだな
貴様の出番はなさそうだぞ
ギル＝ガーラ

ハサスの力など
借りずとも
我が軍のみで
ガランドアを
落としてみせる!!
…好きにしろ
兵に糧食を
使わせろ!!
準備が
整い次第
攻撃を
開始する!!!

ありがとう
サクラ姫
来てくれて
本当に嬉しい
少佐!!
遅くなって
本当にすみません
無事でよかった
…襲われた
だと?
お前が襲われたかも
しれないと聞いて
いたからな…
はい
列車から
突き落とされました
けど…なんとか
生き残れました

何い……!?

この様子……

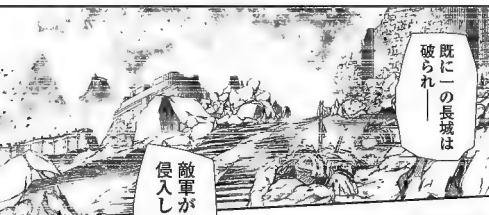
やはりレンを襲ったのは
〝奥の院〟――女の人たちの
独断か
いま突くのは
得策じゃないな……

しっかし
オマエ
それでよく
助かったな

僕は犬獣人（クー・シー）
ですからね
寒いところや
長距離走は
得意です

ただ――

本当に
よくやってくれた
それに
セレア女史
貴女まで
来て下さるとは
逃がさないと
申し上げたでしょう？
お役に
立ちます
わよ
心強いです
フン
今更小娘が
何人か増えたところで
どうなるものでも
あるまいが……
勝負を続けるつもりか
無論です
というより――

ここからが本番です
女ばかりに頼りおって！
やはり貴様のような女たらしにドルネアを好きにさせられぬな
統領!!!
何事だ!!
大変です!!
西の国境に突如ダーラ軍が出現し
攻撃してきたと!!

既に一の長城は破られ――

敵軍が領土内に侵入したと!!

ノルド山脈を越えてきたというのか!?

黒耳長の分際で小癪な……!!!

ハヴォル殿
もし必要でしたら…
見くびるな
貴様に頼むことなどない
………

俺はこれから国境に向かい黒耳長どもを倒して来る
俺が戻るまでに機関車が出来ていなければ
お前達も終わりだ
わかったな？

では
ご武運を祈らせて貰います
余計なことだ
貴様は自分の運命だけ祈ってろ

仕方ない
我々はまず
自分の
成すべきことを
しよう

おい
この嬢ちゃんたちが
機関車の組み立てに
どう役立つって
んだ？
神呪の力を使う

スリーアの砦で
見たあのスッゴイ
力ですよね!!
…でも
どうやって…？

雷…
電気を
使うのさ
電気…？

――と
こういう理屈だ
ザワ
カッ
ほ
本当にそんなことが可能なのか？
もちろんある程度の技術の習得は必要だが
君たちドワーフならばたやすいはずだ
すぐにも試したい
出来るか？
サクラ姫
コク

ところでカイ
ドワーフの
お姫様には
もう会われたん
ですか？
パタン
ええ
…可愛い方
だそうですね
ペラ
そうですね
確かに
そう答えるって
ことは…
やはり
顔を見たん
ですね!?
カマを
かけたんです
!!
どうするんですか!!
ドワーフ女性の顔を
見るっていうことは
その人を
娶るという
ことでしょう!!
あ……
そのこと
ご存じで
アダールは
ガランドアとも
取り引きが
ありました
そのくらいは
知ってます!!

あのハーフリングの女性も!!
いきなり部隊の野営地に現れて
私はグレイ少佐にずっとついて行くと約束したんだ
と
リギアさんも
ずいぶん貴方のことを買っているようですし
ニアもいろいろ言いつつあなたのことを気にしてますし
ホント
お盛んですよね
誤解ですよ!!
んぶ。

そんな無茶な…
まったく…この愚かモノめが
ヒュウウン

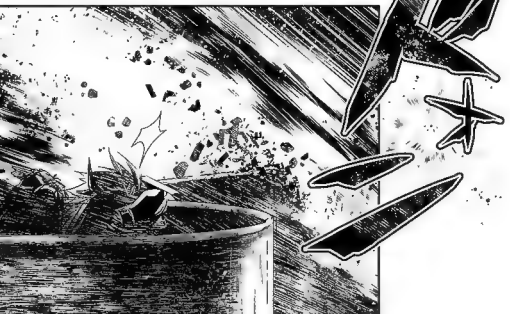
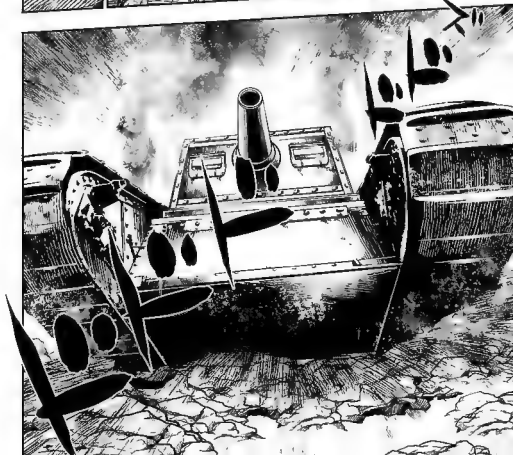
シャクンティーラさん…
サクラめ よほど腹に据えかねたのか妾に任せて隠れおった
はぁ
ほんとに汝は女心の機微に鈍いことよな
しかたないじゃないですか
そもそもおれは女の子とはずっと無縁に過ごしてきたんです
ず〜ん
ではひとつ教えてやろう
ツコン

──女には
理を説いても無駄だ
必要なのは
感情に訴えること
さあ
妾が心に訴えてみろ
そんなこと
言われても…
ぴた
考えるな
いまの気持ちを
素直に言えば良い
……!!

心配かけたり
やきもきさせて
すみません
どうか
俺を助けて
下さい
まだまだだな
ザ
…でも
いま俺に
一番必要なのは
あなたなんです
——おれたちの
未来のために
だが

先ほどよりは
随分マシになった
……!!
あとでサクラにも
言ってやるが良い
んっ…

ようし!!
我らの砲火の前に
連中は完全に
釘付けですぞ!!
うむ…
このまましばらく
砲撃をして
後突撃して
殲滅しましょう!!
そうだな
ダーラ共に
このガランドアに
手を出せばどうなるか——
思い知らせて
やらねばならぬ

砲撃ーーッ!!!
ゴゴゴ
ギュ
ドドド

なんだあれは…
装甲を纏った
…動く砲台…？
この神呪世界では
内燃機関――
つまり
エンジンが
発明されていない
それ故に乗り物は
小型化が進まず
蒸気機関車に装甲を
纏わせた装甲列車
などは
あの砲台を
狙え!!!
撃て!!!
最先端にして
最強の兵器の
一つであった

馬鹿な…!!
だが無理矢理
サイズを拡大することで
蒸気機関の不利を
解決したらしい
その移動砲台は
おそらく
この世界において
最初に実戦投入
された
〝戦車〟だったのだ――
統領!!!
ドキ

わーはっはっは!
アンタの化け物の力はスゲェ!!
これならどえらいモンができあがるぞ
貴方たちのおかげですよ
お待ちください姫さま!!
勝手なことをされてはあとでー
かまいません
グレイさま!!
あにうえの軍勢が二の長城で破れたとの知らせが入りました!!
お願いです
力をお貸し下さい!!

…それは〝戦車〟かもしれません
戦車…？

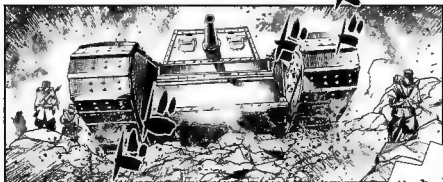
……でもまさかそれがこのタイミングなんて……

まだこの世界では作られてないみたいだったけど
遅かれ早かれ出るだろうとは思ってた

あにうえたちは追い詰められ三の長城まで退いているとこのままでは…
お任せ下さい
サクラ姫のような想い…貴女には
絶対にさせません

ガランドア
三の長城
ドドドド
ウォオオオ
ドガガ
いいか!!
ここを破られれば
地下に侵入される!!

絶対に通すな!!!
ガランドア
西部大門
ド
統領!!
またアイツが!!
く…!!

ゴオオオ
くそ…!!
あの装甲列車が使えりゃ互角以上の勝負が出来たはずなのに……
言うな
あれを動かせるだけの機関車はいま国には無いのだ
ギュイイイ
ピタ
ドガァ
!!?

なんだと…!!?

いや違う

あれはまさか――

まさかヤツの機関車か!!!

もっとどんどん
石炭をくべろ!!
コイツの釜なら
まだイケる!!
では
行きましょうか
はい

我はガランドア一の姫ドルネア!!
戦士たちよ!!その猛き牙を我に捧げよ!!!

――っ!!!
強い…!!
いやあ淑やかに見えましたがさすがドワーフっスね
あにうえ!!
ドルネア…!!
なんとか間に合ったようですね

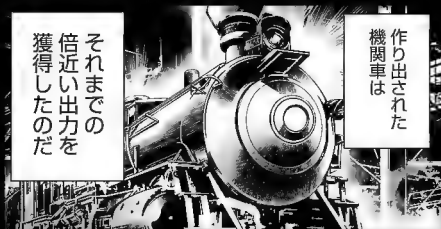
一体
どうやって
たった二両で
あの装甲列車を
引くだけの力を
得た!!?
部品の接合に
溶接と呼ばれる
技術を使った
溶接…!?
――正しくは
〝アーク溶接〟
という
落雷を見たことが
あるだろう?
あの瞬間
凄まじいエネルギーが
天と地の間で
やりとりされる
それを
接合したい
鉄と鉄の間で
行ったらどうなると
思う？

それは
鉄を溶かす
熱となり
その熱が
この溶接棒と
部材を融かし
融接する
それが
アーク溶接だ
但し
溶接を精密に
やるためには
溶接棒にある種の
薬剤を塗って
おかなければ
ならない
これは
完璧とは
いわないまでも
セレアさんが
近いものを
作り出してくれた

こいつが
溶接の道具か
待たせたな

やれやれ
まさか妾の呪いが
こんな使われ方を
するとはな…
準備出来たぜ
!!
やれ
カイ
……っ

おお…!!
確かに融けてやがる…
これを
波のように襞にして
溶かし込む…か
ス…
スゲェぞ こいつは!!!
これなら
スゲェ機関車が
できあがるぜ!!

ザッ
やるぞ野郎共!!!
おう!!
カイが元いた世界でもアーク溶接が発明される以前は
蒸気機関車の部品はリベット打ちで止められていた
――それが後に溶接になったことで
機関車の出力は数十%アップしたという
その溶接作業を
そもそも工作の得意なドワーフが行うことによって――

次弾装填!!!
照準合わせ!!!

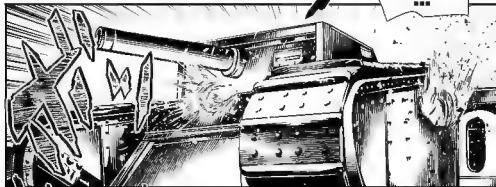
溶接…か

貴様よくそんなことを思いついたな…

思いついたのではない

昔ある場所で学んだのさ

——バイト先の鉄工所でね

撃て——ッツ!!!

やった!!
おおおおおお———ッッ!!!
グレイさま!!
戦車は倒された!!
このまま一気に押し切るぞ!!!
おお!!!

馬鹿な…!!
我らの切り札が…!!

シズナ 出るぞ
はい

【獣人(セリアン・スロープ)】 様々な動物の特徴を色濃く受け継ぐ人種の総称。主なものでも、爬虫類の特性を持つ竜人種（リザードマン）、人狼（ワーウルフ）、人虎（ワータイガー）、犬獣人（クー・シー）など、多岐にわたる。そもそもは、神々の時代にそれぞれの獣を崇めた種族がその特性を獲得したことに始まると言うが、いまとなっては定かではない。また、獣人の中には完全にその元となる獣の姿に変身できるものもいるが、他種属との混血が進んだいまでは、その完全獣化能力を持つ者はごく稀である。

【蒸気機関の発明】 この半世紀ほどで著しく発展した科学技術の中でも、世界に革命的な変化をもたらしたのは、蒸気機関の発明とそれによる鉄道や蒸気船の発展である。それまでは、陸上ではウマやロバなどの動物による馬車や、走るのが得意な獣人種（シレノスやクー・シー）による人力車、また海上では帆船が主な交通手段であったが、蒸気機関の発明は大量・高速輸送を可能にし「神代の広大な世界を瞬く間に人の版図に塗り替えた」と言われている。だが、リベット打ちで作られる蒸気機関は製造過程で高度な技術を要し、また運用には大量の燃料と水を使用するため小型化に限界があり、馬車や人力車を完全に代替するには至っておらず、より小型で効率的な動力機関の開発が待たれている。

第12話／覚醒！焔帝(イフリート)!!
突撃―――ッ!!!

ドドドド
ウーオオーーオオ
司令!!
戦車がやられて
ドワーフ共が
勢い付いております
このままでは
…!!
おやぁ?
くっ…!!

おーや
おやおやおや
戦車が!!!
報告どおり
見事に破壊
されてますねぇ
ドクター・
ヴェラント!!!
貴様の戦車
あっという間に
やられて
しまったぞ!!
だから
早い!!
と言ったの
ですよ
あんな試作品を
実戦投入するのは

それを無理矢理
持ち出したのは
貴方がたでしょう?
おかげで私まで
こんなところまで
付き合わされて
撃て
撃――――ッ!!!
ひっ…!!

ズバオオオ
ギル＝ガーラ…!!!
そ…そうだ!!
お前の出番だぞ!!
あのドワーフどもを打ち倒せ!!
俺の力は要らぬと言った口でそれを言うのか？

……っわかった
足元を見おって……!!
ぐ……
シズナ!!
参りましょう旦那様

ドドン――――
ナナナナ
グレイ
不本意だが
貴様の助力に
感謝する
今日は
約束の
期限だからな
完成した
機関車を披露しに
来ただけの事さ
フン
行きましょう
あにうえ!!
駄目だ
ドルネア
お前はもう
下がれ
え・・・
!?

俺はずっと
お前の幸せだけを
考えてきた
そしてそこに
お前が女戦士として
戦うことは含まれて
いない
…っ…
ハヴォル殿
それは……
口を出すな
これは我ら
兄妹の問題だ
ギロ
お前が幸福になる
道筋はこの兄が
しっかりと造ってやる
だから
これまでのように
俺の言葉に従って
いればいいのだ
いいな!!!

このまま敵の大将の首級を獲る!!

征くぞ!!

ガランドアの勇者たちよ!!

……

やっぱおっかねーっすね 勢い付いたドワーフは

これならもう姫サンが戦う必要もありませんって

ねえ少佐

……

簡単過ぎる

?
ダーラはガランドアを落とすために
わざわざこの季節に標高五千コールを越す
ノルドの山脈地帯を越えてきた
※神呪世界の長さの単位
1コ ルは約1mに相当

…にしては攻撃の手があまりに薄い気がする
あの戦車が切り札だったんでしょう
それにここまで来るためにもかなりの兵を失ったハズだ
確かにその可能性はあるだが――

ゴゴゴ

ブワ
!?

雪…だと!?

なっ…!!?

…!!?

なんだ コイツは…!!?

何なんだありゃ…

あいつは……!!

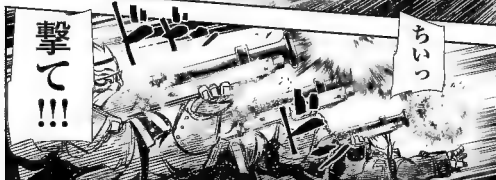
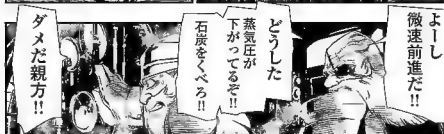
!!?

ハサスの傭兵……!?

ハサスって…あの暗殺組織の!?

ドワーフよ
俺はお前達に遺恨などない
ヒィィン
──が
契約によって戦い
殺すのが我ら〝ハサス〟の掟
──参る
ちいっ
ドドド
撃て!!!

キィィン
バシュッ

ズォ
ギッ
……!!!
なんだ…あの女は…!?
まさか…氷姫(グラキエス)…!!?
ゴォオオ

グラキエスって…?
東方の少数民族に
雪や氷を自在に
操る連中がいるって
聞いたことが
あります
特徴を考えると
おそらくそれかと…
魔術というより
人種の特性として
氷雪を操る?
つまり雪女みたい
なものなのか…?
厄介だな…
おれを一度殺した
ハサスの戦士と
くっ…
装甲列車に
伝令を!!
砲撃でハヴォル殿を
支援しろと!!

ここからだと
狙いにくいな
……
機関士!!
10コールで
いい
列車を移動
できるか!?
よーし
微速前進だ!!
どうした
蒸気圧が
下がってるぞ!!
石炭をくべろ!!
ダメだ親方!!
釜の温度が
急激に
下がってる!!
…。
なんだと…!?
ビュゴオオ

蒸気機関の
熱を奪うなんて…!!!

ほうほう
氷姫の力も面白いですねえ
ですが何より あの機関車!!

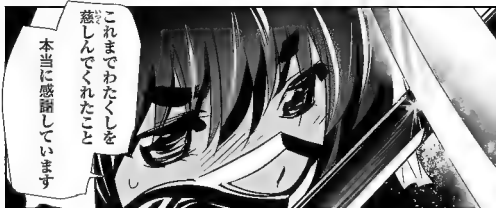
なんと
リベットが!!!
使われていません
まるで鉄を融け合わせたかのようだ!!
この私の識らない技術です
これは…ちょ〜っと
由々しき事態ではありますよねぇ

このまま
押し戻されはせぬ!!
ぬおおお
───ッ!!!
無茶だ・・・!!!
あにうえ・・・
そんなもので
俺を止められるか!!!

ぬううう!!!
その戦鎚(せんつい)・・・ミスリル製か
なるほど シズナの氷陣を破るわけだ
だが
オリハルコンから打ち出したこの剣は
決してドワーフの宝具に引けを取らぬぞ!!!

いまだ!!!
一気に城壁を落とし城門に突撃しろ!!!

くっ…
長城が…!!
馬鹿め
この俺との
戦いで
そんな隙を
見せるとは!!!
仕舞いだ
ぐっ!!!

ドル…ネア…？
出るなと言ったろうが!!
兄の言葉に従え!!!
ギギ

イヤです!!
!!!
あにうえ…
これまでわたくしを慈しんでくれたこと
本当に感謝しています
──でも ドルネアはもう
一人で立てます
一人で決められます
!!!
わたくしの幸せは──

わたくしが決めます!!!

丁度良い
お前の力は
我らハサスが
手に入れる!!!
ー―シズナ!!!
はい
旦那様!!
撃て!!!
氷姫は我々が
足止めします
その間にその
ハサスを!!
グレイさま!!

グレイだと…？
貴様が？
グ…
いかにも俺は――
俺が
グレイ・エンフィールドだ
言い張るか
ならばその仮面…剥いで確かめてやろう!!!
ゴッ

貴様の相手は俺だ!!!
ちいっ!!!
くそ…やるなアイツ…たった一人でハヴォルさんたちを――
!!!
危ない!!!

グレイさま!!
少佐!!
ドッ
ドッ
大丈夫…それほどの深手じゃない
それより貴女に当たらなくてよかったドルネア
……!!

くそっ!!
撃ち
まくれ!!
グレイ!!
無事か!!
ええ
なんとか…
三の長城が
突破されたぞ――
!!!
ドドドド
グラララ
馬鹿な…ッ
!!!

ドルネア!!
何を――!!
決めました
――わたくしの
神呪の力は
グレイさまの為に
使います
だがその男は
……!!

……っ
それが…
お前の選ぶ道か…
ならば
勝手にするが
いい!!
ありがとう
あにうえ…
グレイさま
…わたくしの
乳房には
神の呪いが
宿っています
それでも…
口づけてください
ますか?

イフリートよ――
我が裡に宿る
ドワーフ族の
猛き心と
熱き創造への
欲求の源たる
焔帝よ……
この愛しい方に
我が呪乳の力を
お与えください――

流れ込んでくる
ちゅぷ
とても甘くて…
熱……!!!
グレイさま
どうか…
救ってください
わたくしたちの国を――
あ………っつ!!!

……!!

その程度の炎など!!

くっ!!

ゴバァアア

ドッ
シズナ…!!
ぼ…
ぼ…化け物…!!
ダダ
うわぁあ——ッ!!
撃て 撃てええええーッ!!!
ダダン
ジュッ
ドッ
チュン

ゴゴゴゴ
スゲェ…
これが…
神呪の力…!!
なんという
ことだ…
いやあ
まさか呪装者が
出て来ちゃうとは

まさに
絶体絶命!!
ですね
何かないのか!?
あれをどうにか出来る方法は!!
手段は!!
無理ですね
もうこちらの勝利はないでしょうし…
いっそガランドアを滅ぼしちゃいますか
!!?

ま
一般的には
毒ガスとも
呼ばれますがね
私ねぇ
一度
試して
みたかったの
ですよ――
神呪がもたらす
神の力と
それを駆逐しつつある
科学の力
真に強いのは
どちらなのかを!!!
『神呪のネクタール』第③巻 完

前巻から数ヶ月のご無沙汰です。
『神呪のネクタール』第3巻、手にしていただき本当にありがとうございます!

×　×　×

そんなわけでドワーフです。
トールキン大先生の『指輪』をはじめ、様々なファンタジーに登場する定番種族。短躯で筋骨隆々で、武器を作るのが上手——という、かなり堅固なイメージを持つ種族なわけですが、今回はちょっと裏切って、女性はと～ってもむちむちで美人!　みたいなところにしてみました。トールキン先生によればドワーフは「女性でもヒゲを生やしている」そうなのですが、さすがにそれはちょっち……(汗)。
いや、カイ君にイジワルするのであれば、そういう神妃(アンブロシア)もアリだったかもしれませんが、私も見たくないし佐藤さんも描きたくないだろうということで、ドルネアのようなヒロインの誕生と相成ったわけであります。
実はこの子、なかなか難産だったのですが、結果的には良い娘に仕上がってくれたのではないでしょうか。やっぱ好きなんですよねー「土下座して一生懸命頼めば、いろいろ許してくれちゃいそうなヒロイン」って(笑)。表紙をご覧いただければわかりますが、褐色の肌も中々新鮮で、書いてて楽しい子でした。
もっともお話の展開的には、まーやれ機関車だ戦車だ大軍団だと、佐藤さんには多大な苦労をかけてしまいましたが……。ごめん、ありがとう、佐藤さん。

×　×　×

そんな、楽しさと辛さを同時に味あわせてくれる『ネクタール』。
これからも趣味の世界を突っ走りつつ、佐藤さんも私も全力でがんばりますので、何卒、応援よろしくお願いいたします!

霜月某日　吉野弘幸

神呪(しんじゅ)のネクタール③

2018年2月1日　初版発行

著　者　吉野弘幸(よしのひろゆき)・作
©HIROYUKI YOSHINO 2018
佐藤健悦(さとうけんえつ)・画
©KENETSU SATO 2018

発行者　沖　浩

発行所　株式会社 秋田書店
〒102-8101　東京都千代田区飯田橋2-10-8
☎編集(03)3265-1326　販売(03)3264-7248
製作(03)3265-7373
振替口座　00130-0-99353

印刷所　大日本印刷株式会社
Printed in Japan

ISBN978-4-253-23828-1

デジタル版　2018年発行
製作所　デジタルカタパルト株式会社
http://www.digital-catapult.com